

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	103人	算数	101人	理科	101人
第5学年	国語	85人	算数	84人	理科	85人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

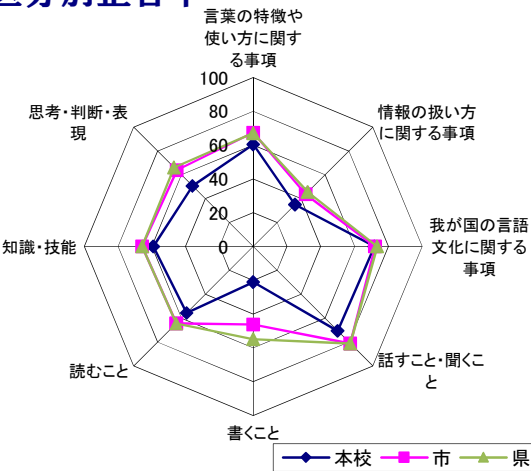
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.4	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	35.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	71.8	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	70.6	81.2	81.2
	書くこと	21.1	46.2	54.9
	読むこと	55.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	59.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	50.8	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

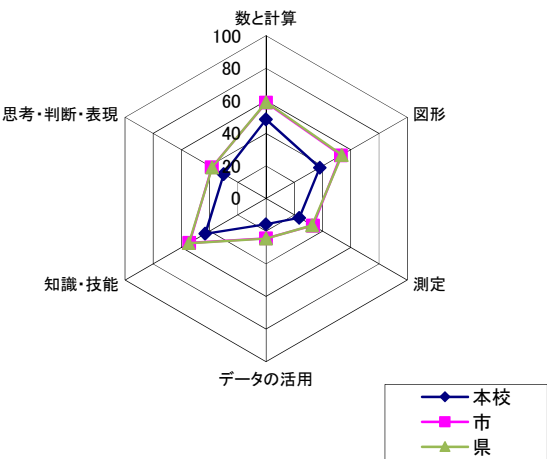
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○●漢字を書く問題では、市の平均正答率を上回ったが、送り仮名の付く漢字は下回っている。 ●主語と述語の組み合わせを選ぶ問題では、正答率が44.7%と市の平均正答率より20ポイント下回っている。 ●ローマ字を正しく読む問題では、市の平均正答率より11.3ポイント下回っている。	・既習漢字の読み書きについては、朝の学習でミニテストやドリル等に繰り返し取り組み、定着を図る。 ・文章を読む際に、主語・述語を確認しながら文の構成を意識して読むようにする。 ・1人1台端末を利用し、タイピングの練習をさせるなど、1年生からローマ字への親しみがもてるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の意味の中から、文章に使われている言葉の意味を選ぶ問題では、市の平均正答率より8.8ポイント下回っている。日頃使用している言葉の中には、意味が複数あるものがあり、それぞれをどのような場面を使うかを考える力が不足していると考えられる。	・児童がすぐに手に取れるように国語辞典を教室に常備して、語句を辞書で調べる活動を実施する。さらに、例文を読んだり、自分でも作ったりして、言葉の使い方を理解できるようにする。 ・朝の学習や授業の始まりなどに、多くの意味をもつ言葉の問題に取り組んだり、様々な本を紹介して読書の機会を増やしたりして、語彙力の向上を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均と、ほぼ同等である。 ○漢字の「へん」と「つくり」を正しく組み合わせて既習の漢字をつくる問題では、正答率が約7割である。	・朝の学習などの時間に、同様の問題に取り組ませる。 ・今後も、新出漢字を学習する際に、部首についても確認する。 ・定着していない児童の意欲を喚起するために、教科書やドリルなどを用いて、同じ「へん」や「つくり」がついている漢字を集めるなど、楽しく覚えられる活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を下回っている。 ●自分の考えを、理由を挙げながら話す内容を書く問題では、市の平均正答率より17.2ポイント下回っている。	・話し合い活動を行う際に、相手がどんな工夫をしながら話しているのかを意識して聞くように助言し、お互いの考えの共通点や相違点を整理させる。また、自分の考えやその理由を発表させたり、書かせたりする。 ・朝の会や帰りの会、授業中などに、話し合いや発表の場を設定する。基本的な会話型を常時掲示し、内容を意識・確認しながら話し合いをしたり、発表したりするようにする。
書くこと	平均正答率は市の平均を下回っている。 ●自分で考えを明確にして文章を書くことができるかどうかみる問題では、33.9ポイント県の平均正答率より大きく下回っている。	・教科書等の文章や模範となる書き方の例を参考にさせ、段落の構成を意識させながら形式的な文章表現の仕方の習熟を図る。 ・日記指導を行ったり、他教科の学習でも「振り返り」などで書く活動を取り入れたりすることで、いろいろな状況に応じた書き方ができるように指導をする。
読むこと	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○登場人物の気持ちに適した言葉を選ぶ問題では、85%の正答率であり、おおむね読み取れている。 ○段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ問題では、市の平均正答率よりもやや高い。 ●叙述を基に場面の様子や文章の内容を捉えることができるかどうかをみる問題の、正答率が低い。	・問題の意図に沿った解答ができるように、様々な問題に触れる機会を増やす。 ・物語文を読むときには、登場人物の心情の変化や要点などに注意しながら読みすすめる習慣をつけさせる。 ・説明文を読むときには、段落ごとにキーワードをみつけ、話の内容を想像しながら読み進めるようにさせる。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.6	58.9	59.2
	図形	38.0	53.0	53.7
	測定	23.5	33.1	32.6
	データの活用	15.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	43.1	54.3	54.7
	思考・判断・表現	30.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

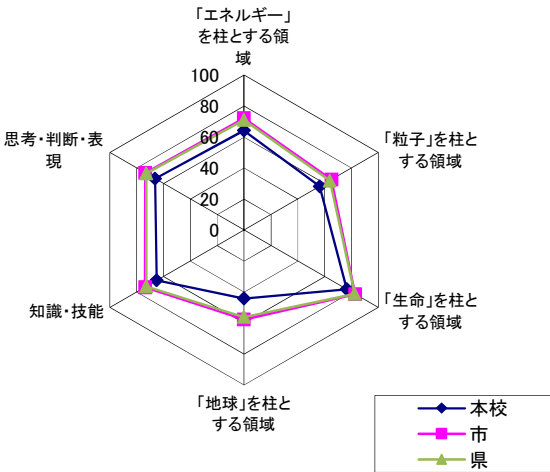
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「大きな数の表し方」の正答率が70.3%で、概ね理解できていることが分かる。また、たし算やわり算などの計算問題の正答率も77.2～78.2%と、概ね理解している。 ●「小数のしくみや表し方」の正答率は、市の平均よりも14.5ポイント下回っている。 ●言葉で説明する問題では、正答率が市の平均よりも5～14ポイント下回っている。計算の仕方を理解し、言葉で表現することに課題が見られる。	・数の概念の理解や計算の技能の維持・向上のため、朝の学習や授業の始め・終わりに練習問題に繰り返し取り組む時間を設定する。 ・小数や分数などの数の仕組みを理解できるように、数直線で表す活動を取り入れる。 ・説明するために必要な言葉や話型を提示したり、ペアやグループ活動を活用したりすることで、考えを伝え合えるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「二等辺三角形になる図を選ぶ」設問では、最も正答率が高く、理解できている児童が多い。 ●「円の性質を利用して、正三角形を作図する」設問では、市の平均を17.1ポイント下回っている。	・作図の技能を定着させるために、繰り返し練習する時間を確保する。1人1台端末の動画なども活用し、個に応じた学習を進められるようにする。 ・正三角形の性質を図と言葉を結び付けて考えられるように資料を提示し、キーワードを見つけさせるなど、考えを言語化できるような指導方法を工夫する。また、異なる図形が重なっている模様にも数多く触れさせ、それらの図形の共通の性質について考えさせる機会を設け、説明することに慣れるようにする。
測定	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「はかりの目盛りを読みとる」設問では、市の平均正答率との差が5.2ポイントと、最も小さい。 ●「重さの単位を理解し、比較する」設問では、市の平均を11.4ポイント下回っている。	・具体物を利用して考える活動を取り入れてきた成果が出ていると考えられるので、今後も継続し、知識の定着、活用力の向上を図る。 ・重さの単位について理解できるように、身近な物の重さを調べたり、1人1台端末を使って友達と調べた結果を共有したりする活動を取り入れる。 ・問題文を正確に把握できるよう、日頃から問題文の内容を意識させる工夫をする。
データの活用	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「棒グラフから、示された値を読み取る」設問では、市の平均正答率との差が小さく、理解している児童が比較的多い。 ●半分以上の児童が問題を解答していない。時間配分や、文章の読み取りに抵抗感があることなどに課題が見られる。	・文章を読み取るときに、大切なところに線を引いたり、グラフと照らし合わせた結果を書き込んだりするなど、順を追って考える習慣を付けられるよう、繰り返し指導する。 ・分からなくても諦めず、問題に最後まで粘り強く取り組むよう、繰り返し指導する。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	56.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	76.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	44.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	65.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	66.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「磁石に引きつけられるものについて理解しているかどうかをみる」問題は、市の平均と同程度である。 ●「日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているかどうかをみる」問題では、市の平均より20.5ポイント下回っている。	・実験や観察のポイントを明確にして、理解を深める。 ・考察や振り返りを自分の言葉でまとめる場面を設定し、学びの定着につなげる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかどうかをみる」問題では、ほぼ市と同程度である。 ●「同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる」問題では、市の平均よりも8.4ポイント低い。	・実験で見つけたことを基に考察を書かせたり、学んだ言葉を使って振り返りをしたりする場を設けることで、理解できるように指導する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「昆虫のすみかについて理解しているかどうかをみる」問題では、市の平均と同程度である。 ●「虫めがねの使い方を身に付けているかどうかをみる」問題では、昨年の取り組みにより改善が見られたが、市の平均よりも10.8ポイント低い。	・実験方法や観察器具の使い方を視覚的に理解できるようにするとともに、使用頻度を増やすなどし、理解できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる」問題では、市の平均よりも18.5ポイント下回った。	・単元の要素に、既習事項や用語を確認する機会を設け、確実に定着するように指導する。

宇都宮市立新田小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習において、「家で、学校の宿題をしている。」という設問の肯定的回答率は95.2%で、県をやや上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」という設問の肯定的回答率は73.3%で、県を5ポイントほど上回っている。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」という設問の肯定的回答率は73.3%で、県をやや下回っていて、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という設問の肯定的回答率は65.7%と、高くはない。家庭学習に関しては、宿題などの決められた学習はするが、自主的に計画を立てて学習することが十分とはいえない児童がいる。自主学習の仕方を継続的に支援・指導し、児童が学習に対する達成感や充実感を味わえるようにしたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」という設問の肯定的回答率は92.4%、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」という設問の肯定的回答率は95.2%と、どちらも9割を超えているので、学習の大切さについて理解していると考えられる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」等の設問の肯定的回答率はいずれも県を上回っており、学びに向かう姿勢は良好であるので、今後も維持できるように支援していきたい。

○各教科の学習において、「将来のために大切だと思いますか。」という設問の肯定的回答率は、どの教科も9割を超えている。

しかし、「授業の内容はよく分かりますか。」という設問の肯定的回答率は、どの教科も8割を超えた値であった。

●「学習は好きですか。」という設問の肯定的回答率は、6割程度で県の平均を下回っている。多くの児童が学習に関して将来のために大切だと考え、意欲的に取り組んでいると考えられるが、今後は各教科の学習に対する児童の興味関心が高まるように、授業を改善していきたい。

●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」という設問の肯定的回答率は65.7%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という設問の肯定的回答率は39.1%で、どちらも県を12.7ポイント下回っていて、自分の考えを発表することに苦手意識をもっている。しかし、「人と話すことは楽しい。」という設問の肯定的回答率は100%、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています。」という設問の肯定的回答率は99.1%で、どちらも県を上回っているため、話し合うことが嫌いなわけではないと考えられる。今後は、自分の意見を発表し易い雰囲気をつくり、話し合いの機会を増やすことで、苦手意識を無くしていきたい。

○「学校の決まりを守っている。」という設問の肯定的回答率は95.2%、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」という設問の肯定的回答率は94.3%で、どちらも県をやや上回っていて、前向きな態度で学校生活を送っていることが分かる。

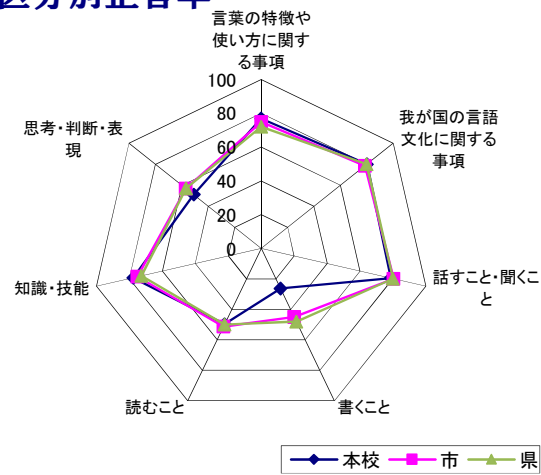
●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」という設問の肯定的回答率は60.0%で、県を6.4ポイント下回っている。今後は、学習に根気よく取り組むことが難しい児童に対して、課題を達成した成就感や学ぶことの喜びが経験できるように、きめ細やかな支援や指導を工夫していきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている。」という設問の肯定的回答率は60.0%で、県を8.1ポイント下回っている。今後は、学級経営を行う中で、係や当番の活動の仕方を見直すなどして、自信をもってできる場や自己有用感を実感させる機会を意識的に設け、児童が主体的に活動できるように指導・支援をしていきたい。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	78.8	80.4	80.0
	書くこと	26.2	45.1	48.0
	読むこと	49.7	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	51.1	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

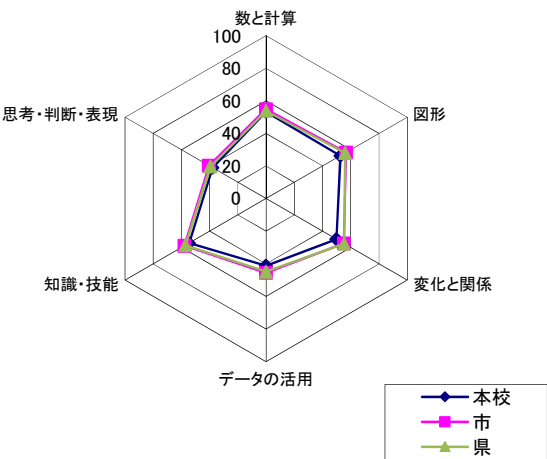
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○前年度に習ったに漢字を正しく読み書きできる児童が多い。特に、漢字を書く問題では、市の平均よりも高い。 ●修飾と被修飾の関係にある語句が離れている場合など、連用修飾語の使い方に課題が見られる。	・漢字の練習や確認テストを継続して実施し、習熟を図る。漢字の読み方についても問題を増やしたり、他教科の学習の中でも意識して読ませたりして言葉への意識を高める。 ・修飾語について、関連した課題に繰り返し取り組み、理解を促す。授業で扱う物語や説明文でも、文法に触れる機会を増やす。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができる児童が8割であり、市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。	・ことわざや慣用句について、教師が意図的に使用し、聞き馴染むようにする。 ・慣用句を使用した短文や正しい使い方の選択問題に取り組み、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題は市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題では、市の平均正答率を5.9ポイント下回っている。	・話し手の伝えたいことを考えながら聞くことは、継続して指導する。 ・文章の書き方の条件を決めて、自分の考えを理由も含めて書く機会を設ける。文章を書くときに、型を示したりすることで、抵抗なく取り組めるように丁寧に指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことは、市の平均正答率よりも23ポイント下回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことは、市の平均正答率よりも15.1ポイント下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことは、市の平均正答率よりも19.5ポイント下回っている。 ●無回答の児童が3割を超えている。最後の問題のため、時間配分がうまくできていなかったり、条件に応じて書くことに慣れていなかったりすることが考えられる。	・朝の学習の時間を活用し、短い初見の文章を読んで、決められた時間内に問題を解くなど、時間を意識した活動を取り入れる。 ・資料から読み取ったことや自分で考えたことを文で書くなど、他教科との関連を図る。 ・必要なことをまとめて書く力を高めるために、行数や段落などの条件を付けて文章を書く活動を取り入れる。 ・書くことに慣れるために、類似課題を繰り返し行う。 ・文章を書くときに、型を示したりすることで、抵抗なく取り組めるように丁寧に指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○場面の様子や登場人物の性格を捉える問題では、市の平均よりも高い。 ●段落相互の関係を捉える問題では、市よりも8.8ポイント下回っている。	・今後も読書指導や新聞記事の要約などの課題に継続して取り組みさせることで、様々な文章に触れる機会を増やす。 ・キーワードになる語や文に線を引くなど、言葉を意識して読むよう指導する。 ・説明文では、文の構成や段落ごとの役割を考えながら読むよう指導する。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.2	54.9	53.7
	図形	52.6	56.6	56.1
	変化と関係	49.7	55.1	55.2
	データの活用	41.2	45.5	44.8
観点	知識・技能	54.5	57.8	57.2
	思考・判断・表現	38.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

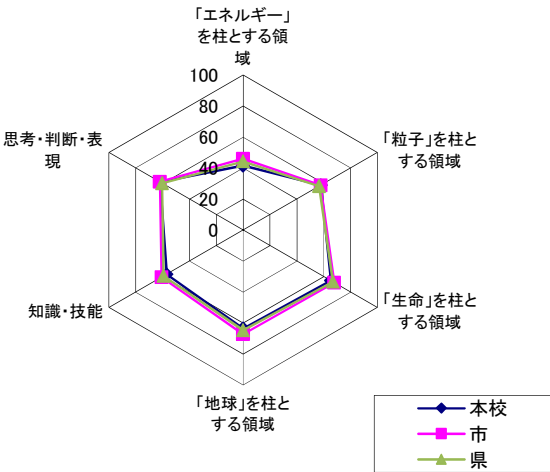
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「式の意味を正しくとらえ、言葉で説明することができるかどうかをみる」設問では、正答率が75.0%で、市の平均正答率よりも10.5ポイント上回っている。 ●「数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことができるかどうかをみる」設問では、正答率が41.7%で、市の平均正答率よりも14.1ポイント下回っている。	・児童が今後も式の意味を正しく捉えることができるよう、立式した際に、その数が何を表しているのか児童に説明させるような場を意図的に設けていく。 ・児童が四則混合の計算の順序を正しく理解することができるよう、繰り返し丁寧に組みませたり、家庭学習において復習できる場を設定したりしていく。 ・児童が分数の意味や仮分数などの用語について理解できるよう、数直線を活用するなど、視覚的に捉えやすくしながら繰り返し指導を行い、基礎・基本の定着を図る。
図形	○「立体の展開図について理解しているかどうかをみる」設問では、正答率が72.6%で、市の平均正答率よりもやや上回っている。 ●「平行四辺形の作図をすることができるかどうかをみる」設問では、正答率が31.0%で、市の平均正答率よりも10.9ポイント下回っている。	・図形の特徴や性質に関する基礎的な知識の定着が図れるよう繰り返し指導を行い、児童が平行四辺形などの作図を正しくできるようにする。 ・日常生活のなかにあるさまざまな図形を見つける活動を取り入れることで、児童が意欲的に図形学習に取り組めるようにする。
変化と関係	○「表を横に見ることで伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる」設問では、正答率が81.0%で、市の平均正答率よりも1.6ポイント上回っている。 ●「表をたてに見ることで伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる」設問では、市の平均正答率よりも11.6ポイント下回っている。	・児童が表やグラフから多面的・多角的に情報を読み取ることができるように、関連した問題を出し、説明させるような場を意図的に設ける。 ・児童が割合のしくみを正しく理解し、割合を使った比べ方について自分の言葉で説明できるよう繰り返し丁寧に指導する。
データの活用	○「折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかをみる」設問では、正答率が市の平均正答率とほぼ同等である。 ●「二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、市の平均正答率よりも8.7ポイント下回っている。	・児童が二次元の表の意味を理解できるよう、二次元表の見方や仕組みについて丁寧に指導する。 ・無回答を減らすために、基本問題に取り組んだり、説明を穴埋めで書かせたりと記述式の問題に繰り返し取り組ませる。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	41.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	57.9	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	65.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	63.5	67.2	64.6
観点	知識・技能	57.0	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりも下回っている。 ●「乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より7.4ポイント低い。 ●「簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均と同程度だが、無回答率が14.1%だった。	・理科で使われる用語の定着を確実にするために、単元末にキーワードとして確認する。 ・実験結果をもとに、わかったことを自分の言葉で記述したり、友達と話し合ったりする時間を確保する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりも上回っている。 ○「とじこめた空気の性質について理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より5.9ポイント高い。 ●「金属をあたためたときの体積の変化について、身近な出来事と関連付けて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より8.3ポイント低い。	・予想や仮説を設定し、体験活動を充実させることで理解を深める。 ・実験で得られた結果と身近な出来事と関連付けることで、より確実に理解できるよう指導する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりも下回っている。 ○「筋肉のはたらきについて考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より4.5ポイント高い。 ●「季節と植物のようすについて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より12.4ポイント低い。	・通年で日常生活にみられる自然現象を見直す機会を設けるとともに、変化がわかるような掲示の工夫をする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりも下回っている。 ○「水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えているかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均を若干上回っている。 ●「天気と一日の気温の変化の関係について記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、市の平均より6.9ポイント低い。	・考察や振り返りに用いる表現の指導や掲示の工夫に取り組み、自分の言葉で考えたことを説明できるように指導する。

宇都宮市立新田小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭学習の設問について、「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答率は96.6%で、県の肯定的回答率を0.7ポイント上回っているものの、「家で、学校の授業の予習をしている。」の肯定的回答率は40.7%、「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定的回答率は52.3%、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の肯定的回答率は58.1%、それぞれ県の平均を下回っている。このことから、与えられた課題については熱心に取り組むことができる児童が多い一方で、自ら進んで授業の予習や復習をしたり、テスト直しをしたりする児童は少ないことが伺える。今後は、予習復習をすることのメリットとして、普段の授業でより多くの分かる楽しさや喜びを感じられることを繰り返し伝えていき、自主学習に積極的に取り組んでいる児童のノートや成果物を手本として示すなどしていく。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答率は69.8%で県の肯定的回答率を11.9ポイント下回っている。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」の肯定的回答率も36.1%で県の肯定的回答率を16.1ポイント下回っていることから、分からない問題に遭遇したときに、すぐに諦めてしまう児童が多くいることが伺える。児童が学習内容に対する課題意識や興味・関心をもちながら、探求心をもって意欲的に取り組めるよう、授業の導入、展開、終末を考えていく。

○「授業を集中して受けている。」の肯定的回答率は93.0%で、県の肯定的回答率を若干上回っている。与えられた課題に意欲的に取り組んだり、教師の話や友達の見聞をよく聞いたりするなど、授業に対する学習の姿勢が身に付いていることが分かる。

○「先生は学習のことにについてほめてくれる。」の肯定的回答率は95.4%で県の肯定的回答率を6.1ポイント上回っている。今後も、認め励ます声掛けを継続して行っていく。

○「学校のきまりを守っている。」の設問と、「家でのきまりや約束を守っている。」の設問の肯定的回答率はいずれも90%を超えており、県の肯定的回答率を上回っている。決められたルールをしっかりと守り、それを実践していこうとする態度が身に付いていることが伺える。

●「家の人と学校のできごとについて話をしている。」の肯定的回答率は83.7%で、県の肯定的回答率を3.2ポイント下回っている。これに対して、「家の人としょ来のことについて話すことがある。」や「家の人と学習について話をしている。」の肯定的回答率は60%程度であり、県の肯定的回答率を大きく下回っている。学級懇談会や、学年便り等を通して、家庭への呼びかけを行っていく。

●国語と算数の「解答時間が足らなかった。」と解答した児童の割合が県の平均に比べて高い。国語や算数の後半の設問になると無解答率が高くなることから、先を見通して問題を解くことを、普段のテストの中で習慣化していく。

宇都宮市立新田小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	全学年を通して、学習した内容を定着させるために、基礎的な問題の練習を繰り返したり、授業の始まりや終わりに確認したりしている。また、AIDリルを利用して、習熟を図っている。	国語、算数ともに、知識・技能を問う問題では、市を下回っているものが多い。国語の知識・技能に関しては、5年生が4年生の時と比べると、7ポイント上回っている。
思考力・表現力の育成	考えをまとめる際には、考える視点や、書く視点を提示し、1人で考える時間を確保している。「まとめ」や「振り返り」を書く際に、本時で習った言葉を必ず入れるなどの条件を提示し、簡潔な短文でまとめるなど、書くことに慣れるようにしている。	「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）と、まとめを書いている。」の質問に肯定的回答をしている児童が約9割と、昨年よりも増加した。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の質問に、4年生は9割以上が肯定的回答をしている。
学び合いの充実	1人1台端末を活用したり、ペアやグループ活動を取り入れたりするなど、互いの考えを共有する活動を設定し、話し合いを活性化できるようにしている。	「授業で友達と話し合う活動を取り入れている」の質問では、4、5年ともに85%を上回っている。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」に肯定的回答をした児童は、4、5年ともに8割を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
知識・技能を「活用」する問題や、根拠を示して説明したり、考えを書いたりする「記述」の問題に課題が見られる。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と考えている児童が7割を超えている。	自分の考えを文章で表すための語彙力と作文技能の向上	・発達段階に応じて、条件を提示した短作文をする機会を設ける。 ・文の書き方や段落の構成などの例を掲示したり、書いた文章を互いに読み合う活動を取り入れる。 ・多様な種類の文章を読む機会を設け、たくさんの言葉と出会えるようにする。